

農村改革の師を伝える学びの杜^{もり}

大原幽学(1797~1858年)は、尾張藩(現在の愛知県名古屋市の出身ですが、長部村を拠点として苦しい農家や農村の立て直しに情熱を注ぎ、多くの功績を残した千葉県の人です。若い時に関西の各地で学んだことを基に、独自の教えとして道徳と経済が調和した「性学」をつくり、天保9(1838)年には、農家同士の助け合いの組織として「先祖株組合」という世界初の協同組合をつりました。

大原幽学記念館

大原幽学記念館は、407点の重要文化財を含む幽学関係の資料約4,000点を所蔵し、幽学の生涯や活動内容、遺品などのほか、地域の歴史・文化に関する資料を展示しています。昨年12月19日に



大原幽学記念館

は、千葉県内で42番目の登録博物館になりました。

記念館は見学だけでなく、市内の史跡や文化財の学習の場として利用することができるほか、古文書など郷土の歴史や民俗資料の収集も行っています。

大原幽学遺跡史跡公園

大原幽学遺跡史跡公園は、幽学の史跡を中心に水田や和風庭園があり、変化に富む丘陵地に造られた公園です。

幽学が住んでいた旧宅(国指定史跡)をはじめ、神社を目指して建てられた大原聖殿や漆喰塗りの宝蔵庫、幽学が設計した旧林家住宅(県指定文化財)、幽学の指導による耕地整理後の水田が保存されているほか、中世の時代に千葉一族の居城だった長部城の形跡をとどめています。

園内には約3,000本の椿をはじめ、桜や水仙、モミジ、ツツジ、アジサイのほかアザミやヤマユリなどの野草も多く、四季を通じて歴史を感じながら散策ができます。



旧林家住宅



和風庭園

大原幽学記念館データ

開館時間/午前9時~午後4時30分

入館料/一般300円、小中高生200円、団体割引あり

休館日/月曜日、祝日の翌日、年末年始

※園内への入園は無料です。

問い合わせ先 大原幽学記念館(☎68-4933)

あさひ輝いた人々 第22回

大利根用水のために 一生をささげた人

のぐち はつたろう
野口 初太郎 (1886~1978年)



江戸時代、椿海が干拓され、干潟八万石の大耕地が誕生しましたが、この大耕地には水源がありませんでした。雨が降れば水害に、降らなければ日照りの害に絶えず悩まされ、水を巡っての争いが続てきました。この問題を解決するため、利根川の水を通水することに努力した人が野口初太郎です。

明治19(1886)年に生まれ、銚子市の小学校を卒業し、24歳で千葉県耕地課に採用となりました。

県内各地の耕地整理を行ったのち、大正5(1916)年干潟耕地の調査や、新川改修工事に携わり、干潟八万石と関わりを持つようになりました。大正12(1923)年には干潟耕地整理創立事務所が開設され、初代所長となり、

旭町に住居を移しました。

大正13(1924)年の干ばつ被害により、農業用水の確保が東総地域の大きな課題になりました。以前は雨水をためておく溜池を重要視していましたが、初太郎は発想を転換させ、利根川から水を引くことを思いつき、実現のためにさまざまな努力を続けました。

昭和10(1935)年に工事が始まりましたが、地元の反対運動やトンネルの難工事、太平洋戦争のための中断、資材の不足などがあり、大利根用水工事は苦難の連続でした。しかし、初太郎はその都度、粘り強く交渉を重ねました。死後も工事は続けられ、平成4(1992)年に大利根用水事業が完成しました。

この事業のおかげで日照りや大雨に関係なく、蛇口をひねれば水が出てくるようになり、農業生産は飛躍的に伸びていきました。その功績をたたえ、昭和56(1981)年に笹川揚水機場跡(東庄町)に石碑が建てられました。



古城小西側の大利根用水